

海外医療研修コース実習・演習

International Student Exchange Course

薬：L1-13503MY

コース科目 5年／前・後期 12単位 選択必修科目

科目責任者 赤沢 学(公衆衛生・疫学研究室)

■教育目的

海外(アメリカ、カナダ、英国、タイなど)の医療に関わる薬剤師の業務と責任を理解し、国際化した社会状況に対応できる薬剤師になるため、国内での実習では得ることが出来ない知識、技能、態度を、海外での課題解決型の学習と就業体験を通して習得する。【卒業認定・学位授与：YD-⑤、YD-⑥】

■学習到達目標

1. 日本の医療制度、薬剤師教育、薬剤師の役割を英語で説明できる(知識、技能)。
2. 海外の医療制度並びに薬剤師教育を理解する(知識)。
3. 海外の地域薬局並びに病院薬剤師の業務と責任を理解する(知識)。
4. 海外の薬学生と交流することで、医療人としての共通意識を深める(態度)。
5. 英語によるコミュニケーション力を高める(技能)。

■準備学習(予習・復習)

予習：日本の医療制度・薬剤師の役割を英語で説明出来るよう準備しておく(10時間以上)。

復習：実習内容をプレゼンテーションできるよう、研修期間中に記録しておく。帰国後、英語検定を(TOEIC)受ける。

■授業形態

課題解決型学習(外部機関との連携あり)、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク

■授業内容

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1～2	事前学習・演習	日本と海外の医療制度、薬剤師教育、薬剤師役割に関する事前学習・調査・英語での発表、語学研修(英語並びに現地語)	A(5)-①-1～5
3～14	実 習	受入大学(アメリカ・イリノイ大学シカゴ校薬学部、カナダ・アルバータ大学薬学部、イギリス・ハートフォードシャー大学薬学部、タイ・チュラロンコーン大学薬学部、タイ・マヒドン大学薬学部)によるオリエンテーションを受けた後に、学内講義やワークショップに参加、地域薬局、病院薬剤師の見学や実務体験、コースワークのプレゼンテーションなどを行う。	A(5)-①-1～5 A(5)-②-1～2
15	事後学習	各自、実習報告書を作成し提出する。また、その内容をグループで報告する。 更に、英語能力を確認するために英語検定(TOEIC)を受験する。	A(5)-③-1～2 A(5)-④-1～2

■授業分担者

赤沢 学(責任者)、樋口 和宏、酒井 良子、熊澤 良祐、櫛山 暁史、前田 英紀、学外講師

■課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

事前演習および研修中の授業態度・課題提出、発表内容(40%)、実習報告書並びに報告会の内容(20%)、英語検定の成績(40%)で総合評価を行う。

■教科書

特に指定なし。

■参考書

A Writer's Reference (英語), Bedford; 9th ed.

The Elements of Style (英語), Classic Edition (2018)

Drugs in Use: Case Studies for Pharmacists and Prescribers (英語)

BNF (British National Formulary) (英語)

<実務実習支援課にて貸し出し可能>

■その他

コースを履修するために必要とされる最低限の語学(英語)能力は、事前に各自が TOEFL/TOEIC を受験し、基準点(毎年公示)に達していることが望ましい。